

海に、森に会いたい



見たことない感動に会う

亜熱帯の森は
希少動植物の宝庫

南の島といえば真っ先に思い浮かぶのは青い海と白い砂浜でしょうか。実は、奄美大島は面積の8割以上が森林。豊かな森には、希少な動植物が生息・生育しています。2021年世界自然遺産登録も、その「生物多様性」が評価された証。奥深い自然の魅力をぜひ確かめてみたい。もちろん、「アマミブルー」とよばれるこの島の海も感動的。どこに行く？そこにある？何が見られる？欲ばりなほどに「会いたい」がいっぱい。

自然散策やマリッジジャーはもちろん、日本で2番目の規模を誇るマングローブ原生林のカヌー探検など、さまざまな体験プログラムもおすすすめ。大自然の中の島呼吸。あなたの中に大きく吸い込んでみてください。



体験！アマミプログラム
体験プログラムも豊富。森や海、川での自然ツアーのほか、ここでしかできない体験も参加したい。「泥染め」という独特な染色の本場奄美大島紬の着付けや泥染めも体験できる。島旅の予定に入れてみてはいかが。



自然なままの島リズム

結いの島はいつでも「おかえり」と迎えてくれる癒やしの場所



奄美の
人に会いたい

独特のこぶしと高い裏声の特徴の奄美の島唄
夕暮れの浜辺
三線（サンシン）を抱える唄者と出会うことも。旅人の偶然というシアワセは意外に島の日常かも。



島人（シマツキ）はおもてなし上手！昔から海の彼方からやってくる者を「稀人（まれびと）」として歓迎するのが奄美の人たち。島口（シマクチ）方言もご愛嬌。笑いでこたえれば笑いで返ってくるのです。奄美大島では集落のことを「シマ」と呼びます。それぞれのシマに先人から受け継がれた伝統文化も興味深い。一緒にチン（太鼓）をたたき、輪になって唄い踊る「八月踊り」や祝いの締め定番「六調」もまた楽しい。

昔ながらの奄美と 新しい奄美の楽しみ方

島の郷土料理を「シマジュリー」という。華美ではないけれど、素材で滋味あふれる家庭料理がそうなのだ。奄美群島は健康長寿の島としても知られる所以がここにあるのかもしれない。それだけではないのが「いま奄美！」。島の食材を使った新しいスタイルの島料理や本格リゾートから民家に泊まるプランもぞくぞく。島情報を駆使して、食べ歩きやいろんな島泊もしてみたい。古き良き奄美、新しい奄美が大きな楽しみになりそう。



アマミソウルFoods
奄美で食べて欲しいシマメニューだっていっぱいある。鶏飯（けいはん）、油そうめん…昔ながらの食文化を体験するのも島旅の醍醐味。もちろん奄美群島内でしかつくられていない「黒糖焼酎」もぜひ飲んでほしい。



旅のスタイルに合わせて
リゾートホテルから古民家宿、小さな島宿まで“いもーれ”の島迎え。



photo:「伝泊」～島に暮らすように泊まる～

週末だけでも楽しめる
福岡から直行70分。
空たび

奄美大島
喜界島
徳之島
沖永良部島
与論島

>>>> 飛行機直行便
福岡空港 ↔ 奄美大島空港 約1時間10分 (1日1便)

>>>> 新幹線～フェリー
博多駅 ↔ 鹿児島中央駅 最速76分
鹿児島新港 → 名瀬港 約11時間

※記載している時間はおおよその目安です。